



地理畧說

菊池大麓編述

卷上

□ 6
137
1



菊池大麓編述

論理略説

版權免許

同盟舎



論理畧説緒言

本書ハスタンレー、ジエボンス氏ノ著セルエ
 レ、メンツ、オブ、ロジックニ據リ旁ミルベイン、トム
 ソン等ヲ参考シ初テ論理ヲ學フ者ヲシテ其
 大畧ヲ識ラシムルヲ目的トシ且童蒙ニ解シ
 易カラシメンガ為ニ平易ニ之ヲ説キタル者
 ナリ故ニ諸大家ノ未一定セザル論ノ如キハ
 姑ク其一ヲ取リテ餘ハ悉ク之ヲ掲ケズ且事
 ノ少シク高尚ニ渉ル者ハ皆之ヲ省ク
 學科上ノ言語ハ翻譯或ハ編述ニ從事スル者

東京
 大學
 圖書
 印

1917
 卷 1

同盟舎
 緒言

ノ最困難トスル所ナリ論理學ノ如キハ一定ノ譯語有ル者甚少シ本編ハ可成的簡易ナル語ヲ用キタリト雖其當ヲ得ザル者極メテ多カル可シ譯語ノ一定ハ實ニ今日ノ急務ナリ余ハ嘗テ此事ニ就キテ東洋學藝雜誌中ニ意見ヲ述ヘタルヲ有リタリ今益其說ノ是ナルヲ信ス

書中引用スル所ノ例ハ明了解シ易キヲ主トセリ故ニ誤謬ノ諸例ノ如キハ其誤謬ノ顯然タルヲ以テ人或ハ決シテ斯ノ如キ誤謬ニ陷

ルヲ有ル可カラズ何ゾ喋々之ヲ説クヲ要セシヤト譏笑スル者無シトセズ是蓋シ淺層ノ見ノミ善ク其真趣ヲ玩味シテ世ノ虚説誤謬ヲ觀レバ皆此ニ出ザル者ハ有ラザルナリ

明治十五年十二月

編者 識

論理學大意
 名辭總論
 名辭二重ノ意義アル事
 述意ノ種類
 述意ノ反對
 彙類、屬隸的ノ者、定義
 述意ノ轉換、直接推斷

論理畧說卷之上

目錄

- 第一編 論理學大意
 - 第二編 名辭總論
 - 第三編 名辭二重ノ意義アル事
 - 第四編 述意ノ種類
 - 第五編 述意ノ反對
 - 第六編 彙類、屬隸的ノ者、定義
 - 第七編 述意ノ轉換、直接推斷
- 目錄終

論理略說卷之上

目録

第一編 論理學大意

第一章 論理學ノ意義

第二章 論理學ノ種類

第三章 論理學ノ地位

第四章 論理學ノ方法

第五章 論理學ノ應用

第六章 論理學ノ歴史

第七章 論理學ノ未來

論理略說卷之上

第一編 論理學大意

菊池大麓 編述

論理學ハ理ヲ論シテ其正不正ヲ判断スルノ學科ナリミル氏ノ釋ニ曰ク證據ヲ推シテ以テ眞實ヲ究ムルノ學ナリト云フ然レドモ實ニ眞實ヲ究ムルノ學ニ在リテハ唯理ヲ知ルニ在ルノミ惟フニ若シ其力ヲ較スレバ人ハ虎豹ニ如カズ神速ハ驥騏ニ及ハズ輕捷ヲ以テスレバ人ノ獼猴ニ及ハザルヲ遠シ而シテ其能ク虎豹

ヲ制シ驥馱ヲ馴シ獼猴ヲ弄スルヲ得ルモノハ
他無シ唯其理ヲ知ルニ由ルニ英國ノ碩學ベ
イコン公曰ク智識ハカナリト誠ニ確言ト謂フ
ベシ而シテ其智識ヲ致スハ實ニ理ヲ究ムルニ
在レバ則正當ニ推理スルハ豈ニ極メテ急要ナ
ラザランヤ
論理ノ學ハ諸學科中其區域最廣大ナル者ト謂
フベシ他ノ學科ノ若キハ唯天地萬象ノ一部ニ
就キテ其理ヲ研究スルニ過キズト雖夫ノ論理
ノ學科ニ至リテハ則然ラス蓋シ他ノ諸學科ノ

定論ヤ其之ヲ推断スルノ方ハ各小異同有リト
雖皆思考ノ定綱ニ從テ夫ノ論理ノ學ニ由ラザ
ル者ハ有ラザレバナリ或人云ク論理學ハ學門
ハ學ナリト旨アルカナ此言
抑人必ス此學科ヲ修メザレバ其考思推断スル
所悉ク皆正當ナル能ハズト云フベカラズ然レ
ドモ時ニ或ハ紕繆誤差無キヲ保スベカラズ夫
レ苟モ之ヲ免レテ而シテ其正ヲ得ント欲セバ
勢夫ノ論理ノ學ヲ講セザルヲ得ザルナリ是猶
人其健全ノ日ニ當テハ未曾テ樂ヲ要セズト雖

其無病ハ終ニ必スベカラズシテ一朝之ニ罹レ
 バ勢亦夫ノ配劑方ヲ知ラザルヲ得ズ是レ理ノ
 極テ見易キ者ナリ而シテ平居善ク衛生ノ法ヲ
 知リテ之ヲ守ル者ハ病ヲ致スコト少シ今夫ノ論
 理ノ學科ヲ修メザル者ハ則衛生ノ理ヲ知ラザ
 ル者ノ如ク動モスレバ思考ノ疾患ニ罹リ易ク
 且若シ其錯誤有ルニ遇フトモ恰モ臆算ニ錯誤
 ヲ生ジタル者ノ如ク其起因ト所在トヲ知ルニ
 由無キナリ若シ之ヲシテ此學科ヲ修メシ者ナ
 ラシメバ宛モ筆算ヲ以テ計ルガ如ク直ニ其起

因ト所在トヲ知リシ得ルコト亦易々タラン
 推理ノ方法ハ大別シテ二トス曰ク歸納法曰ク
 演繹法今其大意ヲ示ス可シ
デタクシヨシ
 人ノ常ニ推断スルヤ凡ソ事物ハ必ズ前日遇フ
 所ノ情境ニ同ジカル可シト期スル者ナリ例ヘ
 ば空中ニ雲有レバ雨降ル可シト推断スルハ是
 其前日はノ如キ情境ナリシ時ニ雨降リタルバ
 今亦然ル可シト期スルナリ或ハ黄色光有ル重
 キ物ヲ見テ金ナリト推断スルモ亦之ニ同ジ然
 レ氏斯ノ如ク同一様ノ情境ヲ以テ推断シ去ル

ニ往々誤マラル、¹有リ例ヘバ其形色食フ可
キ菌ニ似テ有毒ナルモノヲ食フテ死スル¹有
リ或ハ鯨ノ水中ニ棲息スルヲ以テ誤テ魚類ト
認ムル者有リ蓋シ是皆同様ノ情境ト見ユルモ
其實ハ同一ナラザルニ起ルナリ¹フ¹ケツト
ヲ以テ体ヲ纏ヘバ身暖ナリ然レドモ之ヲ以テ
氷ヲ包ム¹其暖ク成リテ溶解スルヲ防ク可
シ¹ケツトハ此ノ如ク二様ノ効用有リテ其質常
ニ同一ナラザルガ如シト雖其實ハ決シテ然ラ
ズ其効用ハ何ノ場合ニ於テモ唯熱ノ其一方ヨ

リ一方ニ傳通スルヲ妨クルノ¹是ノ如ク其實
ハ同一ニシテ異ナル如ク見ユル者有リ
事物真ニ同一ナレバ必同一ノ作用有リ同一ノ
原因ハ必同一ノ結果ヲ生ス¹推断ノ難キハ原因
ノ真ニ同一ナルト否トヲ判スルニ在リ之ヲ確
認スルハ極テ丁寧精密ナル推想法ヲ要ス吾人
ハ何如ナル事物ノ何如ナル事物ト常ニ俱ニ相
聯帶シテ生シ来ルヤヲ研究セザル可カラズ即
造化ノ定綱ヲ發見セザル可カラズ造化ノ定綱ト
ハ某情境有レバ必某ノ事有ル可シト確定シタル

者ヲ云フ夫ノ理學諸科ハ則斯ノ定綱ノ集成ナリ
故ニ論理學ニ於テハ此定綱ヲ發見スルノ方法
ト又既ニ發見スルノ後之ヲ應用スルノ方法ト
ヲ講セザル可カラズ○之ヲ發見スルハ則歸納
推理法ニ由ル人ハ其耳目等ノ五官ヲ用テ四圍
ノ事物ヲ觀察シ是ヨリ推究シテ以テ定綱ヲ知
ルヲ得ル例ヘバ牛羊鹿等ノ如ク其蹄ノ裂ケタ
ル動物ハ皆草ヲ食フヲ觀テ則一定綱ヲ断定シ
テ曰ク裂蹄動物ハ草ヲ食ト為スト又雨雪電露
霧等ハ空氣中ノ水ヨリ生スルヲ知リ漸ク研究

シテ凡ソ濕氣ヲ含メル空氣ノ寒冷スル片ハ水
ノ分子ヲ出現スルヲ發見ス是亦一ノ定綱ナリ
故ニ歸納法ハ許多ノ件々ヨリシテ汎ク之ヲ總
括スル真事ヲ推定スルハ方法ナリ
演繹推理ハ之ニ反シテ已ニ造化ノ定綱ヲ知り
テ其當然生シ來ルベキ結果ヲ推定スルナリ例
ヘバ濕氣ヲ含メル空氣ノ寒冷スル者ハ水ヲ出
現スルノ定綱ヲ知了スレバ則夏時氷水ヲ盛リ
タル飲水器ノ外面ニ露ヲ現スルヲ推定ス可シ
又裂蹄動物ハ草ヲ食フノ定綱ヲ知レバ則羊ハ

草ヲ食トスルヲ推断ス可シ演繹法ハ即定綱ヲ
應用スルノ方法ナリ
論理ノ難キハ歸納法ニ由リテ定綱ヲ發見スル
ニ在リテ定綱ハ之ヲ應用スルノ先ニ既ニ之ヲ發
見セザル可カラザルガ如シト雖其實ハ歸納法
ヲ解スルニハ必先ツ演繹法ヲ解セザル可カラ
ズ一定綱ノ真趣ヲ知了セシニハ其生ズル結果
ノ何如ヲ明ニセザル可カラズ一定綱ノ真假ヲ
辨識セシニハ其結果ヲ推断シテ果シテ實地ノ
現象ト符合スルヤ否ヲ究メザル可カラズ例ヘ

バ夫ノニウトンガ万物相引クノ定綱ヲ發見セ
シ若キ當初先ツ演繹法ニ由リテ推断スラク定
綱若シ真ナルカ月ハ則當ニ每秒若干尺ツ、地
球ニ向テ近ツクベシト因テ之ヲ實地ニ觀測シ
其果シテ然ルヲ見得タリ然ル後始テ此定綱ヲ
唱ヘタルナリ故ニ演繹法ヲ知ラザレバ歸納法
ヲ行フコト能ハズ
故ニ余ハ先ツ演繹法ヲ説明ス可シ而シテ凡ソ
一事實ヲ推断スルハ又必言語ニ資ラザルヲ得
ザレバ則言語ヲ詳悉スルハ又須ラク其先ニ於

スベキト譬ハ猶象戯ヲ闘ハスニ先ツ碁子ノ行
 道ヲ知ラザルベカラザルガゴトシ今請フ茲ニ
 簡易ナル推断ノ一例ヲ舉ケン
 東京人ハ日本人ナリ
 日本人ハ亞細亞人種ナリ
 (故ニ)東京人ハ亞細亞人種ナリ
 上文ヲ看ルニ三箇ノ段落有リ共ニ之ヲ述意ト
 云フ毎段各二箇ノ名辞有リテナリト云ヘル詞
 ヲ副ヘテ一個ノ述意ヲ成シ三箇ノ述意ヲ並セ
 テ一箇ノ推断ヲ為ス之ヲ證説ト稱スルナリ演
 義ト云フ

釋論理學ハ此ノ如ク必三部ヲ分チ其一ハ名辞
 ノ解義其二ハ述意ノ解義其三ハ證説ノ解義ヲ
 云ヒ特ニ其第三部ノ證説ノ解義ヲ以テ斯學ノ
 主腦ト為シ前ノ二部ハ皆唯之ヲ解釋センガ為
 用ナリ
 又此三部ニ配對スル三様ノ思考有リ一ヲ單想
 ト云ヒ二ヲ比判ト云ヒ三ヲ推断ト云フ
 單想トハ唯心ニ一事一物ヲ偶想スルヲ云ヒ何
 物ヲ限ラズ之ヲ心ニ想フハ所謂單想ナリ譬ヘ
 船舶ト云ヘル名辞有リ此ハ是レ唯心ニ思フ

命里各見
 卷之十一
 七
 司盟

物ヲ辞ニ表スルマデニシテ曾テ其動靜運載及
其他一切ノ關係ニ及ボサバ爾ナリ故ニ夫ノ名
辞ハ觀ル所ノ現物ニ代用スル符號ニシテ心裏
ノ思想ヲ起スガ為ニ要スル者ナルコトヲ知ルナ
リ太陽東京書籍等ノ名辞モ亦皆然リ
比判トハ單想ニ由テ心裏ニ想起セシニ箇ノ事
物ヲ彼此相比較シテ其異同ヲ判決スルヲ云フ
譬ヘバ地球ハ圓体ナリトスレバ凡百ノ圓形物
ト地球トヲ比較シテ其形ノ同ンキヲ判スルナ
リ

推断トハ既ニ知了セル述意ニ由リ之ヲ推シ致
シテ更ニ一ノ異ナル述意ヲ断定スルヲ云フ譬
ヘバ
①蹄ノ裂ケタル動物ハ草ヲ食トスル者ナリ
②牛ハ蹄ノ裂ケタル動物ナリ
③然ラバ牛ハ草ヲ食トスル者ナリ
ト云ハンニ先ツ①②ヲ知リテ③ヲ推断シ得ル
ガ如シ而シテ既ニ知了セル述意ヲ前提ト云ヒ
由リテ推究シテ知ル所ノ述意ヲ断言ト云フ

○第二編 名辞總論

ホツブス氏曰ク名辞ハ我が心裏ニ曾テ存スル
 モノヲ思ヒ起シ亦他人ヲシテ我が思フ所ノモ
 ノヲ知ラシメンガ為ニ用キル符號ナリト
 第一編ニ於テ既ニ示セル如ク二箇ノ名辞ニな
 りノ二字ヲ副ヘテ一ノ述意ト為スハ則是レ二
 箇ノ名辞ノ指ス所ノ事物ヲ相比較スルナリ而
 シテなりト云ヘル詞ノ如ク二箇ノ名辞ヲ聯繫
 スル者ヲ稱シテ連辞ト云フ例ハ「字典ハ有用の
 書物なりト云フ片ハ字典ト有用の書物ハ名辞
 ニシテなりハ連辞ナリ」

右ノ例中後段ノ名辞ハ有用の書物ト云ヘル一
 句ナリ名辞ハ是ノ如クニシテ其長短ニ関スル
 コト無ク數語連用スルモ亦曾テ妨ケザルナリ
 例ハ「昨日予が東京に在りて遇ひたる人は何
 某なりト云フ片ハ昨日予が東京に在りて遇ひ
 たる人ノ十四字句ハ前名辞ニシテ何某ハ後名
 辞ナリ」
 然レドモ唯一ノ語詞ニシテ用キテ名辞ト為ス
 ベカラザル者有リ實名詞(天地間万物ノ名)若シ
 クハ之ニ代用セル所ノ詞及句ニ非ザレバ前名

論理略説 卷之十一 九 同

辞トシテ用キルベカラズ又實名詞形容詞働詞
若シクバ之ニ代用セル詞及句ニ非ザレバ用キ
テ後名辞ト為スベカラザルナリ働詞ハ實ニ後
名辞ト連辞トヲ併合シタルモノニシテ例ヘバ
馬嘶くト云フ片ハ嘶くハ働詞ニシテ其意嘶く
ものなりト云フニ同シク嘶くも此所謂後名辞
ナリトなり所謂連辞ナリトヲ併合シテ嘶くと
云フナリ又而して或ハ及ひ於て等ノ語詞ハ到
底獨立シテ名辞ト為ルベカラザル者ナリ若シ今
試ニ而しては何々なり何々は或はなり於てガ

何々を為すト云ハ聞ク者ハ其何等ノ意義ナ
ルヤヲ知ルニ由無カルベキノミ
語詞ハ此ノ如ク二種有リテ其一語ニシテ能ク
名辞ト為ルベキ者ヲ能獨用為名辞ト名ツケ其
一語ニシテ名辞タル能ハザル者ヲ不能獨用為
名辞ト称ス
又名辞ハ其意義ニ由テ種々ノ區別有リ第一特
名辞總名辞第二有形名辞無形名辞第三陽名辞
陰名辞第四關係名辞無關係名辞等是ナリ
特名辞ハ唯一事一物ニ畫リテ他ニ通用セザル

名稱ヲ云フ例ヘバ楠正成ト云ヘル名ノ如キ唯夫ノ湊川ニ戦死セシ楠正成一人ニ限りテ曾テ他人ニ通用スベカラザルナリ又日本ト云ヒ大阪ト云ヒ太平洋ト云フ如キモ皆是レ特名辞ニシテ現任ノ太政大臣或ハ日本中の最高山ト云フガ如キモ亦唯其人其山ノ一ニ限りタル者ナレバ共ニ是レ特名辞ナリ而シテ鈴木ト姓シ伊勢屋ト號スルガ如キ同姓同號者多シト雖既ニ鈴木ト云ヒ伊勢屋ト云ハ必一ノ鈴木一ノ伊勢屋ヲ指シタルニテ同姓同號ノ人ト総稱スル

ニ非サレバ則之ヲ他ノ鈴木若シクハ伊勢屋ニ通用スベカラザルナリ故ニ此類モ亦皆特名辞ト稱スル合名類ノ一ト云フ例ヘバ人ト云フ總名辭ハ一種類属ノ總稱ヲ云フ例ヘバ人ト云ヘルガ如キ苟モ人類タラバ其老若男女若クハ健羸智愚ヲ問ハズ皆指シテ之ヲ稱スルヲ得ルナリ又星ト云ヘルガ如キ遊星彗星恒星ニ皆通用スルヲ得ベシ又集合名辭ト稱シ許多ノ物ヲ合セ一体ト為シテ呼ブ所ノ名稱ニ用キル者アリ例ヘバ兵卒一大隊ト云フガ如キ所謂一大

論理各説 卷之七 十一 同 盟

隊トハ兵卒幾許人ヲ合セタル者ノ名ニシテ即
 集合名辭ナリ又一船の乗り組、消防人の一組、紙
 の一帖ト云フガ如キ皆亦集合名辭ナリ集合名
 辭ハ此ノ如ク數物ヲ一体ト做シテ呼ブ名稱ナ
 リト雖亦之ヲ總名辭ト混一スベカラズ蓋シ集
 合名辭ハ數物ヲ一物ト做シテ呼ビ總名辭ハ一
 種屬中ノ者ハ彼此ヲ問ハズシテ稱スル者ナリ
 故ニ集合名辭ニシテ總名辭タル者有リ其例ヲ
 舉グレバ大隊ト云ヘル名目ノ若キ是ナリ抑大
 隊トハ許多ノ兵卒ヲ一隊ト為シテ之ヲ稱スル

ナレバ則實ニ集合名辭ナリ然レドモ大隊ニ亦
 許多有リ其彼此ノ別無ク皆之ヲ大隊ト呼ブハ
 所謂總名辭ナリ而シテ第一大隊若シクハ此大
 隊ト稱スレバ專ラ某ノ大隊ニ限ルヲ以テ所謂
 特名辭ナリ又一年トハ三百六十五日ヲ合セテ
 之ヲ呼ブニ在レバ則所謂集合名辭ナリ而シテ
 唯一年ト云ヘバ何レノ年ニ用ヰルモ妨無キヲ
 以テ之ヲ總名辭ト稱シテ可ナリ然レ氏紀元幾
 年ト云フガ如キハ某ノ年ニ限ルヲ以テ所謂特
 名辭ト為ルナリ

論理學
有形名辭ハ有形物ヲ指ス名稱ナリ無形名辭ハ
無形物ヲ指ス名稱ナリ例ヘバ白紙紅葉ハ有形
名辭ニシテ白紅ハ無形名辭ナリ智者勇者ハ有
形名辭ニシテ智ト勇トハ無形名辭ナリ而シテ
有形名辭ハ萬物ノ名ニシテ無形名辭ハ万物ノ
性質ヲ稱スルノ名ナリ且或ハ無形名辭ヲ以テ
有形ノ意義ニ用ヰルコト有リ例ヘバ善ハ急げ
ト云フ無形名辭ノ善ノ字ヲ以テ善き事ト云ヘ
ル義ニ當テ、用ヰルナリ是レ論理學上注意ス
ベキ肝要ノ一事ニシテ此區別苟モ判然タラザ

レバ大ニ言語ノ混雜ヲ生ジテ之ガ為ニ推断ヲ
誤ルコト少カラザル者ナリ
陽名辭ハ某々ノ性質有ルコトヲ稱シ陰名辭ハ
其性質無キヲ稱スル者ナリ例ヘバ明なる窓賢
き人重き事明かならざる窓賢こからざる人重
からざる事ト云フガ如キ明かなる窓賢こき人
重き事ハ陽名辭ニシテ明かならざる窓以下ハ
皆陰名辭ナリ而シテ陰名辭ハ大抵不又ハ無等
ノ言語ヲ以テ之ヲ陽名辭ニ別ツ然レドモ時ニ
因リ或ハ陰名辭ノ如クニシテ其實ハ陽名辭ナ

ル者有り亦陽名辭ニ似テ其實ハ陰名辭ナル者
有り今其一例ヲ示サンニ幸ハ陽名辭ナリ故ニ
不幸ト云ヘバ陰名辭ノ如シト雖其意義ノ及フ
所ヲ推セバ不幸ノ字面ハ唯幸カラ。ざ。る。ノ意ニ
止マラズシテ現ニ禍害有ルノ稱ナレバ則所謂
陽名辭タルナリ又暗ノ如キハ陽名辭ニ似タリ
ト雖其字面ハ唯無光カ。或ハ不明ノ意ニ止リテ他
義有ルニ非ザレバ所謂陰名辭ナリ又更ニ奪名
辭ト稱スル者有リテ陽陰二様ノ意義ヲ示ス例
ヘバ盲ノ如キハ是レ視ルヲ得ベキ理ナルニ見

ル能ハザル者ヲ稱スルナリ故ニ木石ノ如キ始
ヨリ視ルコト無キ物ニハ盲ノ字面ヲ用ヰル
無シ啞聾等ノ如キモ亦然リ
關係名辭ハ必彼我相關ル意義有ル者ヲ稱ス異
同父臣等ノ如シ蓋シ父ト云ヘバ子ニ關係シ臣
ト云ヘバ君ニ關係ス故ニ子無ケレバ父無ク君
無ケレバ臣ノ稱無シ又異同ノ語モ必他物ニ對
シテ其意義ヲ生スルナリ而シテ其關係スル
所ノモノヲ稱シテ對辭ト云フ故ニ父臣ハ子君
ノ對辭ニシテ子君モ亦父臣ノ對辭ナリ

論理各説
卷之七
十四
同
盟
舎

無關係名辭ハ更ニ他物ニ關係セザル者ノ稱ナ
 リ水、人、星等ノ如シ
 又或ハ名辭ヲ別テ單義數義ト為ス^{二三ノオカレ}有リ單
 義名辭ハ唯單一ノ意義有ル者父、机ノ如シ數義
 名辭ハ許多ノ意義有ル者例ヘバかめノ如シ龜
 ト瓶トノ二義有リ又かみノ紙、神、守、上、加味、啗等ノ
 數義有ルガ如シ蓋シ是レ一語ニシテ許多ノ義
 ヲ具フルニ非ズ數語ノ音ノ偶々相同シキ者ナ
 リ又別例ヲ舉グレバ黄、^{ウマ}赤、^カ心、^マ節ト
 云ヘル等黄、赤、^{ウマ}音ハ共ニ數義名辭ナリ又行ノ字

ノ如キ訓テおこなひゆくだり(書物等ノ)ト云
 フヲ得ルハ所謂數義名辭ナリ
 以上舉グル所ハ唯其最解シ易キ者ヲ以テ一端
 ヲ示スノミ其混雜ニシテ辨シ難ク議論ノ錯誤
 ヲ生シ易キ者ニ至リテハ錯誤ノ條下ニ詳論セ
 ントス

第三編

名辭ニ二重ノ意義有ル事

名辭ニハ大抵二重ノ意義ヲ具フ其廣即外行ト
 其深即内包トノ二重ナリ
 外行ノ意義トハ唯其指ス所ノ物ヲ云ヒ内包ノ

論理略言 卷之十一 同 壘 舎
意義トハ其物ノ具ヘタル性質ヲ謂フナリ例ヘ
バ船ト云フガ如キ之ヲ解シテ汽船、帆船、屋形船、
猪牙船若シクハ家根船等ト為スハ所謂外行ノ
意義ニシテ若シ解シテ水上ヲ行キ物ヲ運ビ人
ヲ載スルノ用有ル物ナリトスルハ所謂内包ノ
意義ナリ又汽船ト云フ如キ其意義ノ外行ハ東
京丸、廣島丸、金剛艦等ヲ指スニ在リ内包ハ水
汽ノ蒸力ニ由テ運行スル船舶ヲ示スニ在リ又山
ト云フガ如キ其意義ノ廣ハ富士箱根、ひまらや、
あるぶす等ヲ指シ其深ハ高ク突出シタル地處

ヲ示スナリ
船ト云ヘル辞ハ汽船ト云ヘル辞ニ比スレバ其
外行ノ意義ハ廣クシテ其内包ノ意義ハ淺シ蓋
シ船トハ汽船及一切ノ船舶ヲ指シ總テ水上運
行ノ用有ル者ニ用ヰルヲ得ルモ却テ汽船ト
云ヘル如クニ其之ヲ行ルノ方ヲ指示セザレバ
ナリ又外輪ノ汽船ト云ヘル辞ト汽船トノ辞ヲ
比スレバ外輪ノ汽船ト云ヘルハ其意義外行ニ
狭クシテ内包ニ深シ又三本柱ノ外輪汽船ト云
ハ其外行ノ意義更ニ狭クシテ其内包ノ意味

愈深シ名辞ハ此ノ如ク其意義ノ外行即廣ノ減少スルニ從テ其内包即深ヲ増加スル者ナリ然レドモ其廣ノ減少ト深ノ増加トノ比例ハ必シモ同シキニ非ラズ例ヘバ人ト云ヘル辞ニ白ヲ附シテ白人ト云ヘバ其廣ノ減少スルコト之ニ盲ヲ附シテ盲人ト為ス片ノ如クニ甚シカラズト雖白人盲人共ニ皆一層ノ深ヲ増ス英國ノ碩學ミル氏ハ名辞ヲ内包ノ意義有ル者ト無キ者トニ分別シテ之ヲ解キテ曰ク内包ノ意義無キ名辞ハ唯其物ヲ指シテ其性質ヲ示サ

ズ若シクハ唯其性質ヲ示スノミ内包ノ意義有ル名辞ハ其物ヲ指シ又其性質ヲ示スト今例ヲ舉ゲテ之ヲ釋センニ譬ヘバ法蘭西倫敦信長秀吉等ノ如キハ皆唯其名目有ル物ヲ直指シテ其性質ヲ示サズ又黑白賢愚ノ如キハ唯其性質ヲ表スルノミニシテ復別ノ意義ヲ含マズ共ニ是レ内包ノ意味無キ者ナリ之ニ及シテ白物ト云ヘルガ如キハ總テ雪紙鹽等ノ如キ白質ノ物ヲ指シ(所謂外行ノ意義ナリ)亦其白色ノ性質有ルヲ示ス(所謂内包ノ意義ナリ)又勇者ト云ヘル如

キ一面ハ義經、清正、ねるそん等ノ如キ人物ヲ指シ(所謂外行)一面ハ其勇マシキ性質ヲ備ルヲ示ス(所謂内包)共ニ是レ内包ノ意義有ル者ナリ同氏又曰ク有形、総名、辞ハ総テ内包ノ意義有リト譬ヘバ樹木ト云ハバ凡百ノ樹木ヲ指シ又其根有リ幹有リ枝有リ葉有ル等ノ性質ヲ示ス又曰ク無形、名、辞ハ内包ノ意義無シト譬ヘバ智ト云ハバ唯其性質ヲ指スノミ又曰ク人名地名等ハ皆内包ノ意義無シ例ヘバ一女兒ヲ名ツケテ阿花ト云ヒ一犬ヲ號シテ熊ト呼ビ一船ヲ稱シ

テ扶桑艦ト云フガ如キハ唯其物ヲ指示スルノミニシテ曾テ其性質ヲ示スコト無シ又曰ク地名ノ如キ其名ヲ下スノ時其緣由無カラザル者有ト雖一度其名ヲ下ス片ハ唯其物ヲ指スノ意義有ルノミ決シテ内包ノ意味有リト為スベカラズト譬ヘバ東京ノ銀座ノ如キ當初銀座ノ所在ニ緣由シテ之ヲ名ツケタリシト雖明治ノ今日ニ至リテ之ヲ看レバ其事實ハ既ニ過キ去リテ唯其名ヲ存スルニ過ギザルナリ故ニ京橋々頭ノ某街ヲ稱シテ銀座ト云フモ其辞ニ於テハ

之ヲ名ツケシ時ノ意義ヲ含ムニ非ザルナリ
ジエボンス氏嘗テミル氏ノ説ヲ駁シテ曰ク地名
等ノ名辞モ内包ノ意義無シトスベカラズト今
其説ニ因リ前ノ銀座ヲ引用シテ之ヲ例センニ
盖シ銀座ト云ヘバ當初ハ銀座ノ在ル街ト云ヘ
ル内包ノ意義ナリシモ今日ニ至テハ稍々其内
包ノ意義ヲ變ジ以前銀座ノ在リシ街ナリト云
フモ可ナレバナリ又何某ト云ヘル人名ノ如キ
モ其人ヲ指シ外行ノ意義其人ノ顔色形貌氣性
等ヲ示ス内包ノ意義者ナリ若シ然ルニ非ザレ

バ其人ニ面スルニ當リテ何ヲ以テ能ク其何某
タルヲ知ルヤト此論未必シモ非ナリトス可
カラズト雖姑クミル氏ノ説ニ從テ可ナラシカ

第四編 述意ノ種類

述意トハ心ニ決定セルコトヲ其詞ニ陳ブルヲ
云フ譬ヘバ太陽が光ルト云ヘル詞ノ如キ太陽
ト云ヘル詞ノ指ス所ハ物ト光るものト云ヘル
詞ノ指ス所ハ物トヲ並ベテ太陽ハ光ル性質有
ルコトヲ心ニ決定シ之ヲ言詞ニ述ブルナリ
論理學上ニ於テ述意ト稱スル者ハ文法學上ノ

所謂文章ナリ而シテ之ヲ述意ト云ヒテ文章ト云ハザル者ハ蓋シ文章ト云ヘバ述意ノ如キ直説体ノ者ニ止マラズシテ疑問命令祈願呼喚等ノ諸体ヲ該包シ此疑問等ノ諸体ハ之ヲ變換シテ直説体ノ者ト為スニ非ラザレバ論理學上終ニ之ヲ論スルヲ要セザレバナリ
前面ニ説ク如ク述意ハ二箇ノ名辭ト連字トヲ以テ成立シ前ノ名辭ヲ主辭ト稱シ後ノ名辭ヲ屬辭ト名ツク蓋シ述意ハ前ノ名辭ヲ以テ主眼トシ後ノ名辭ハ夫ノ主辭ニ伴屬シテ陳述スル

事物ヲ言フ者ナリ
述意ニ種類有リ第一分テ單純複雑ト為ス單純述意トハ唯一箇ノ主辭ト一箇ノ屬辭有ル者ヲ稱ス例ヘバ正成ハ死セリト云フガ如キ是ナリ
複雑述意トハ二箇若シクハ二箇以上ノ主辭或ハ屬辭有リ或ハ主屬共ニ二箇以上有ル者ヲ稱ス例ヘバ正成ハ死シたきども尊氏ハ未死せず甲と乙ハ米國と歐洲とに遊學セリト云フガ如キ是ナリ上ノ例ハ唯單純述意數個ヲ合セテ複雑ト為スノミ顧テ下ノ甲と乙を米國と歐洲と

論理各説 卷之十一 二十一

に遊學せりト云ヘル例ヲ看レバ唯總ニ甲オ米
國に遊學せり乙ハ米國に遊學せり甲ハ歐洲ニ
遊學せり乙ハ歐洲に遊學せりト云ヘル四箇ノ
單純述意ヲ併合シタル者ナルヲ知ル可シ此外
更ニ別様ノ複雑述意有リ例ヘバ甲若シ乙オレ
バ丙ハ丁オリト云ヒ甲オ乙オリ然リザレバ丙
ハ丁オリト云フガ如シ論理家ハ之ヲ設若述意
ト稱ス而シテ第一引例ノ類ヲ稱シテ假想ト云
ヒ第二引例ノ類ヲ名ツケ離接ト云フ凡ソ此類
ハ皆後段ニ之ヲ詳説シ此ニハ專ラ直説体ニ關
カス

カル者ヲ説カン
第二述意ヲ分チテ肯定否定ト為ス肯定ノ述意
トハ其主辭ノ指ス所ノ物ニ屬辭ノ指ス所ノ性
質有ルコトヲ示ス者ヲ云フ例ヘバ金ハ黄オる
ものなりト云詞ハ其主辭タル金ニ黄オる性質
即黄色有ルヲ示スナリ否定ノ述意ハ之ニ反シ
テ其主辭ノ指ス所ノ物ニ屬辭ノ指ス所ノ性質
無キヲ示ス者ヲ云フ例ヘバ金ハ容易ニ溶解ス
べきものならずト云フガ如シ金ノ容易ニ溶解
スベキ性質無キヲ示スナリ述意ノ肯定ナルカ

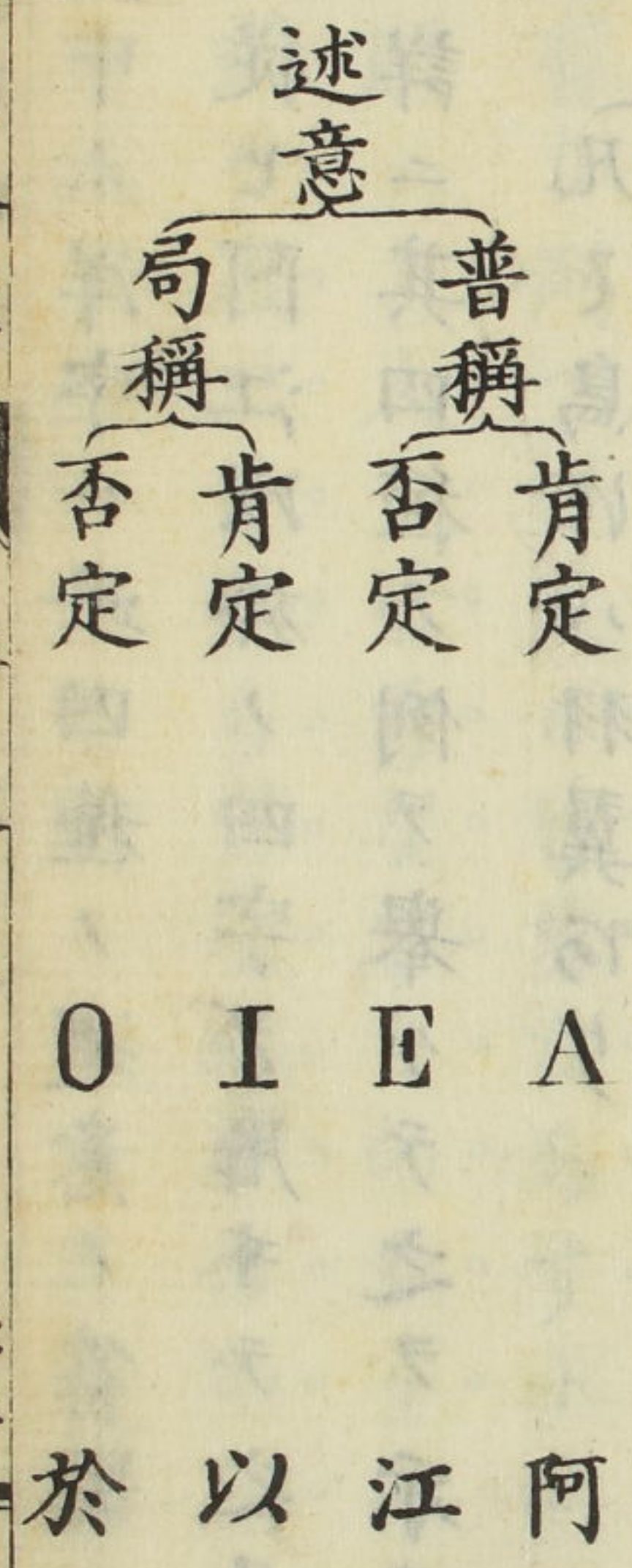
論理各説 卷之十一 十一 同盟 舍

否定ナルカヲ其質ト云フ
第三述意ヲ分チテ普稱^{タリテ}局稱^トト為ス普稱ノ述意
トハ其主辭ノ指ス所ノ物ハ普及圓滿ニシテ些
ノ遺漏無キ者ヲ云フ例ヘバ總テノ學科ハ有益
かるものなり凡ての人ハ死するものあり智識
ハ一として無用かるものあらずト云フガ如キ
學科若シクハ人若シクハ智識ノ名ヲ附クベキ
者ヲ舉ケテ皆遺スコト無キヲ示スナリ局稱ノ
述意トハ其主辭ノ指ス所ノ物唯其一部局ニ止
リテ徧及ボス者ニ非ザルヲ示ス者ヲ云フ例ヘ

バ或る人ハ智者なり船舶の多分は木材を以て
造れり二三の石は水より輕しト云フガ如キ皆
唯其一部局ノ狀ニ就テ之ヲ云フノミ但シ其部
局ノ多寡大小ヲ問フト無シ述意ノ普稱ナルカ
局稱ナルカヲ其量ト云フ
論理學ノ首唱者タル希臘ノアリストトールハ
上ニ所謂二種ノ述意ノ外更ニ特稱不定稱ノ二
種有ルヲ説キテ共ニ四種ナリト云ヘリ而シ
テ其所謂特稱述意トハ其主辭ノ特名辭ナル者
ヲ云フ例ヘバ孔子ハ聖人あり倫敦ハ大都府を

ト云フガ如キ是ナリ然レ其主辭ノ指ス所
既ニ遺漏有ル無キヲ以テ云ヘバ之ヲ普稱述意
ノ中ニ置クモ亦妨々有ラザルナリ又不定稱述
意トハ其主辭ノ指ス所ノ物果シテ普及ナルカ
將タ限局ナルカ文面上ニ於テ判然ナラザル者
ヲ云フ例ヘバ材木ハ必須あるものなり彗星ハ
引カノ定綱ニ従ヘリト云フガ如キ是レ其述意
者ノ意中ニハ必一定ノ物有ルベシト雖外ヨリ之
ヲ確定スルコト能ハザルナリ然レ氏之ヲ確定
スルハ元ト論理學外ノ事ニシテ又苟モ之ヲ確

定スルコト能ハザレバ終ニ得テ之ヲ論理學中
ニ説クヲ能ハザルナリ故ニ特稱、不定稱ノ別種
ヲ立ツルハ是正當ノ分類ニ非ズシテ畢竟ハ普
稱局稱タルベキノミ
是ニ於テ吾人ハ述意ニ肯定、否定、普稱、局稱ノ四種有
ルヲヲ断定シ得タリ今其圖ヲ按スルニ左ノ如シ



圖中ノ洋字ハ此四種ノ述意ノ符號ナリ今其音ニ從ヒ阿江以於ノ四字ヲ用キテ之ヲ譯シ而シテ詳ニ其四種ノ例ヲ舉ケテ之ヲ示サントス

凡そ鳥にハ羽翼あり

阿 大阪ハ繁華ある都府あり

万物ハ引力に従へり

人ハ皆死を免るゝ能はず

江 尊氏ハ忠臣にあらざ

鶏卵ハ一も四角あるものあり

或る石ハ水より輕し

於 多くの書物ハ有益あり

於 金属の多くハ脆からず

通常ノ文句ニハ種々ノ体様有リト雖善ク其意

義ヲ推考シテ此四者ノ中何レニ属スルカヲ決

定スベシ且文章ノ体様ニ因テ意義ノ疑ハシキ

者有リ例ヘバ人ハ皆勇ならずト云フ如キハ或

ハ解シテ人ハ皆勇なきものありト為シ得ベク

又或ハ人ハ勇ならざるものありト解シ得ベ

シ是誠ニ忌ムベキトニシテ其義ノ所在ヲ究メ

務テ其曖昧ヲ避ケテ以テ述意ノ種類ヲ正スハ
 此學ヲ修ムル者ノ最肝要トスル所ナリ
 此他述意ニ種々ノ体有リト雖皆善ク其意義ヲ
 會得シテ之ヲ夫ノ四種ノ中ニ歸適セシメ而推
 断ノ法ヲ及スベキノミ
 第五編 述意ノ反對
 述意ニ四箇ノ種類有ルコトハ前編ニ於テ已ニ
 断定シタリ故ニ今論歩ヲ進メテ夫ノ四種ノ述
 意ヲ相較シ其互ニ反對スルノ理ヲ究メントス
 所謂四種ノ述意トハ何ソ曰ク

阿 普稱肯定

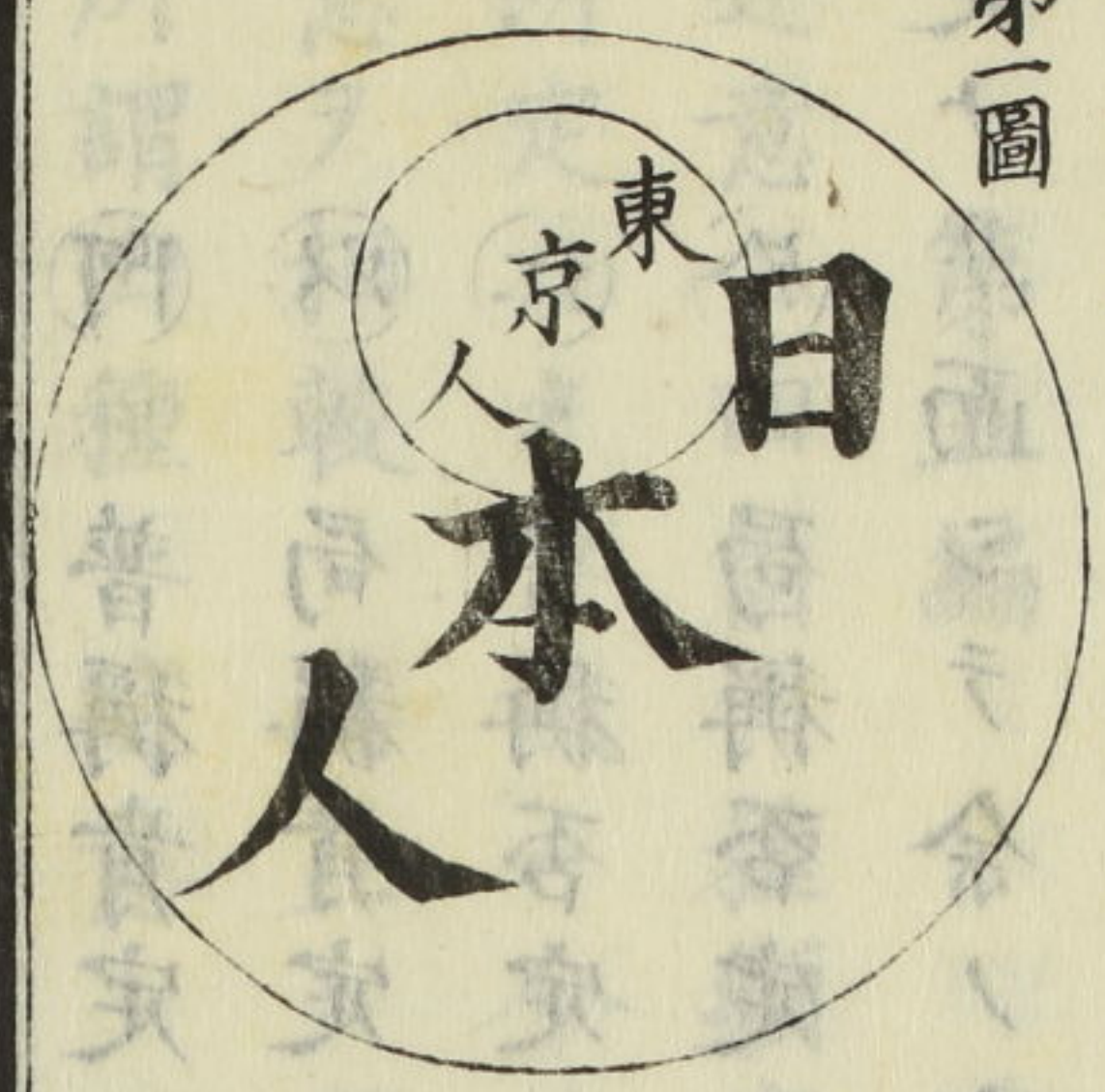
以 局稱肯定

江 普稱否定

於 局稱否定

是ナリ而シテ余ノ之ヲ論スルヤ毎ニ阿江以於
 ノ符號ニ因テ之ヲ説明セントス看者幸ニ記セ
 ヲ
 阿ハ則其主辭ノ指ス所ノ物ハ咸ク其屬辭ノ指
 ス物ノ中ニ在リテ其一部分タルヲ示ス例ヘバ
 總ての東京人は日本人なりト云ガ如キハ是レ

阿述意ニ属ス盖シ東京人ハ咸ク日本人ノ部中ニ在リテ即其一部分ナリト云フノ意ナリ而シテ此類ノ述意ハ日本人ノ中唯東京人ノ全体ヲ包含スルヲ示シ曾テ日本人總体ニ説キ及ホサズ今其圖ヲ考フルニ左ノ如シ



小圓形ノ局裏ハ總東京人ヲ示シテ他部ノ人ヲ入レズ而シテ之ヲ包含スル大圓形ハ總テノ日本人ヲ示ス者ナリ今小

第一圖

圓形ノ既ニ大圓形ノ中ニ在ルヲ見レバ東京人ノ咸ク日本人中ニ在ルヲ知ル然レドモ小圓形以外ニ在ル日本人ハ果シテ如何タルヲ知ルニ由無シ是レ盖シ此種ノ述意ニ於テ之ヲ示サバレバナリ
以ハ其意義略阿ニ同ジ唯其主辭ノ指ス所ノ物ノ一部分ニ就テ之ヲ言フノミ例ヘバ或る東京人ハ士族ナリト云フガ如キハ是レ以ノ述意ニ属ス其意盖シ東京人ノ中ニハ士族モ有ルヲ云フナリ但某々ノ東京人トノミ云ヒテ其多寡ヲ

説キ出サズ今其圖ヲ考フルニ左ノ如シ

第二圖

兩圓形ノ相接シテ黒キ處ハ則主辭ノ

士族

指ス所ノ物ヲ示シ即東京人ニシテ士

東京人

族タル者ヲ表ス而シテ兩圓形ノ相接

セザル部局如何ハ吾人之ヲ知ルヲ得

ズ蓋シ此種ノ述意ニ於テ之ヲ示サバレバナリ

江ハ則主辭屬辭ノ全ク相異ナルヲ示ス例ヘバ

一の東京人も歐洲人からずト云フガ如キハ是

レ江ノ述意ニ屬ス其意蓋シ東京人ノ中一人モ

歐羅巴人ト名ツクベキ人類有ラザルヲ示スナ

リ其圖ヲ考フルニ左ノ如シ

第三圖

東京人

歐洲人

按スルニ江種ニ屬スル述意ニ因テ屬辭ノ指ス

所ノ事物ノ總体如何ヲ了知スルヲ得ベシ上ノ

例ノ如キ實ニ歐羅巴人ハ總テ東京ノ人ニ非ガ

ルヲ知ル是レ否定述意即江於ト肯定述意即阿

以ト互ニ相及スル肝要ノ點ニシテ蓋シ論理學

上ニ極テ緊切ナル者ナリ論理學家ノ説ニ否定

論理田言 卷之十一
述意ハ其属辞ヲ周逮シ肯定ノ述意ハ之ヲ周
逮セズト云ヘリ而シテ理論ノ誤謬ハ多ク其中
ニ散布スル名辞ノ周逮如何ニ由テ之ヲ正スヲ
得ベシ所謂名辞ヲ周逮ストハ其指ス所ノ事物
ノ全体ニ就テ之ヲ説クノ意ヲ謂フナリ名辞ノ
周逮セルト周逮セザルトヲ其量ト云フ
上ニ説ク所ヲ以テ之ヲ推セバ阿ニ属スル述意
ハ其主辞ヲ周逮シテ其属辞ヲ周逮セズ今第一
圖ニ據テ之ヲ明ニセンニ東京人ハ咸ク日本人
民タルヲ知ルモ日本人全体ニ就テハ更ニ知ル

所ナシ以ニ属スル述意ハ稍々之ニ異ナリ主属
共ニ周逮セズ今第二圖ニ據テ之ヲ明ニセンニ
東京人ノ全体ト士族ノ全体トニ就テハ更ニ其
一二ヲ知ルコト無シ江ニ属スル述意ハ大ニ前
ノ二者ニ異ナリ主属共ニ周逮ス今第三圖ニ據
テ之ヲ明ニセンニ東京若シクハ歐洲ノ人ニ就
テ其全体ヲ知ルヲ得ルナリ
於ハ則其主辞ヲ周逮セズシテ常ニ其属辞ヲ周
逮ス例ヘバ或る東京人ハ士族にあらずト云フガ
如キ以テ見ルベシ其意盖シ一ハ以テ某々部分

論理田言 卷之十一 二十八

ノ東京人ハ士族ノ外ナルヲ示シ又一ハ以テ
 士族ハ咸ク夫ノ主辞ノ指ス所ノ或る東京人の
 外ナルヲ示ス是レ即主辞ヲ周逮セズシテ其
 属辞ヲ周逮スル者ナリ今其圖ヲ按スルニ左ノ
 如シ

士族

東京

黒色ヲ帯ブル者ハ東京人ニシテ士
 族ニ非ザル者ヲ示ス因テ士族圓形
 中ニ在ル者ハ咸ク主辞ノ指ス所ノ
 或る東京人ノ外ナルヲ知ルベシ

周逮ノ法ヲ考フルニハ左ノ表ヲ以テ之ヲ明ニ

ス可シ

(主辞) (属辞)

普稱

肯定 (阿) 周逮 不周逮 其當否

否定 (江) 周逮 周逮

局稱

肯定 (以) 不周逮 不周逮

否定 (於) 不周逮 周逮

述意

若シ夫レ述意ノ互ニ相反スル者ヲ知ルハ其事
 甚易クナリ即前ニ引證シタル諸例ヲ取テ之ヲ
 示サン。總ての東京人は日本の人あり。阿ト云へ
 ル述意ヲ當ナリトセバ其々の東京人は日本人

言理田言 卷之十一 同 盟 舎
にあらず。以ト云フハ否ナリ。況ヤ之ヲ稱シテ総ての東京人ハ日本の人にあらず。江ト云フニ至テハ尤否ナルヲ知ル是ヲ以テ阿述意ニシテ當ナラバ江於述意ハ否ナリ。江於述意ニシテ當ナレバ阿ノ述意ハ則否ナリ。此理タルニ因テ江ノ述意當ナレバ阿以ハ否ナリ。阿以當ナレバ江ハ否ナリ。然レドモ阿ノ述意ニシテ否ナル片ハ於ハ必當ナルモ江ハ其當否知ルベカラズ。例ヘバ人は皆信實なり。阿ト云ヘル述意ニシテ否ナル片某々の人は信實ならず。

於ト云ヘル述意ハ必當ナルモ総ての人ハ信實ならず。江ト云フニ至リテハ其當否得テ知ルヘカラズ。是ヲ以テ阿ト於トハ兩ナカラ當ナル能ハズ。亦兩ナカラ否ナル能ハズ。而シテ阿ト江トハ兩ナカラ當ナル能ハザルモ能ク兩ナカラ否ナルコト有リ。故ニ阿ト於トハ實反對ノ述意ニシテ阿ト江トハ大反對ノ述意ナリ。而シテ江ト以モ亦實反對ニシテ兩ナカラ當ナル能ハズ。亦兩ナカラ否ナル能ハザル者ナリ。

論理各説 卷之十一 三十一 同 盟 舎

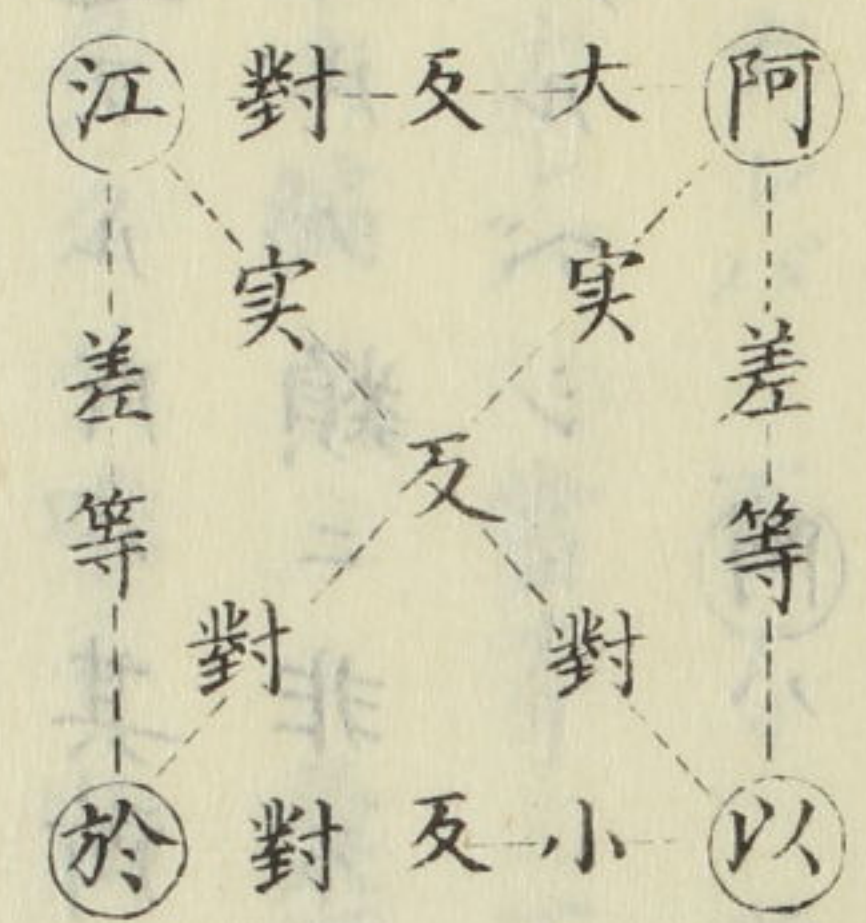
是故ニ若シ阿ノ否ナルヲ明ニセント欲セバ唯
於ノ當ナルヲ示スベシ曾テ江ノ當否ヲ問フヲ
須申ズ例ヘバ獸類は皆陸地に棲めるものあり
ト云ヘル述意ノ否ナルヲ明スニ當リテ夫ノ獺
ノ獸類ニシテ水中ニ棲メル一例ヲ取り来リテ
某の獸類ハ陸地に棲まずト云ヘル於ニシテ當
ナル者ヲ舉クレバ獸類は皆陸地に棲めるもの
ありノ述意阿ハ終ニ立ツコト能ハズシテ自ク
ラ其否ナルヲ表ス江ノ否ナルヲ明ニセント欲
セバ須ラク以ノ當ナルヲ示スベシ是ヲ以テ對

論人ニシテ普稱述意阿江ヲ持重スル片ハ之
ヲ破ルノ術唯其實反對ノ述意ヲ証スルノ一要
事有ルノミ又夫ノ以ノ否ニ至リテハ江ノ當ヲ
舉ゲテ之ヲ示サバ以テ明ナルヲ得ベシ
以ト於トノ意義ヲ比較スレバ其意固ヨリ相反
スル所有リト雖時トシテハ兩ナガラ當ナルコ
ト有リ例ヘバ或る東京人は士族あり以或る東
京人ハ士族あらず於ト云フガ如キ兩者ノ意義
相異ナルモ彼此兩ナガラ當レリ而シテ論理家
以於ヲ稱シテ小反對ノ述意ト云フ

又普稱ノ述意當ナレバ局稱ノ述意ハ必當ナリ
然レ凡普稱ノ述意ノ否ナルヲ以テ必局稱ノ述
意ノ否ナルヲ證スベカラズ蓋シ阿否ナルモ以
當ナル有リ江否ナルモ於當ナル有レバナリ而
シテ局稱ノ述意否ナレバ普稱モ亦必否ナルヲ
ヲ知ルト雖局稱ノ當ナルハ普稱ノ當否ヲ知ル
ニ由無シ

論理家阿ト以ト並ニ江ト於トラ稱シテ差等ノ
述意ト云ヒ阿江ヲサブオルテナシト稱シ以
於ヲサフオルテルネトト稱ス阿江以於ノ相反

對スル状ハ左圖ニ據テ明ナリ



讀者若シ此圖ヲ以テ未足ラズトセバ乞フ更ニ
左表ヲ掲ケテ其意ヲ明サン

- | | | | |
|---|------|-----|-----|
| 阿 | 當ナレバ | 當ナリ | 否ナリ |
| 江 | 當ナレバ | 否ナリ | 當ナリ |
| 阿 | ハ | 當ナリ | 否ナリ |
| 江 | ハ | 否ナリ | 當ナリ |
| 以 | ハ | 當ナリ | 否ナリ |
| 於 | ハ | 否ナリ | 當ナリ |

以當ナレバ 不可知 否ナリ 當ナリ 不可知
 於當ナレバ 否ナリ 不可知 不可知 當ナリ
 此表ニ據テ考フレバ一普稱述意ノ當ヲ述ル片
 ハ他ノ述意ノ當否ヲ知ルノ多キ局稱述意ノ當
 ヲ述フル片ノ比ニ非ズ之ニ反シテ局稱述意ノ
 否ヲ述フル片ハ其所知ノ多キ普稱述意ノ否ヲ
 述フル片ノ類ニ非ズ乞フ左表ヲ見テ其然ル所
 以ヲ知ルベシ

阿ハ 江ハ 以ハ 於ハ
 阿否ナレバ 否ナリ 不可知 不可知 當ナリ
 江否ナレバ 不可知 否ナリ 當ナリ 不可知
 以否ナレバ 否ナリ 當ナリ 否ナリ 當ナリ
 於否ナレバ 當ナリ 否ナリ 當ナリ 否ナリ

第六編 彙類屬隸的ノ者、定義
 名辭ハ多クハ唯一物一事ニ限ルノ名ニ非ズシ
 テ往々數物數事ニ通用スベキ者ナリ例ヘバ人
 ト云フガ如キハ之ヲ古今内外ノ人ニ通用スベ
 ク又之ヲ幾億万人若シクハ一人ニ用ヰルベシ
 故ニ普稱名辭ハ每ニ等類ノ通名ニシテ其万事
 万物ヲ種々ノ等類ニ分ツハ論理學上ニ在リテ

論理學 卷之四 三十三 同 盟

最切要ナル者ナリ之ヲ名ツケテ彙類ト謂フ
按スルニ数物数事ヲ合セテ一箇ノ等類ト為ス
ハ必其事物ノ互ニ相似タル所有ルヲ以テス例
ヘバ氷、雪、白粉、石灰、水泡、乳汁等ノ白色ヲ帶ブル
物ヲ彙集シテ白キ物ト云ヘル一箇ノ等類ヲ立
ツルガ如シ又筆ト云ヘル等類ヲ立テ羊毫モ鹿
毛モ狸毛モ兔毛モ竹管、木軸ノ擇ナク其文字ヲ
書スル同一効用有ルニ因テ之ヲ其類中ニ入ル
ルナリ
此ノ如ク能ク等類ヲ分チテ其性質ヲ知ルヲ

得レバ則同一等類中ノ諸物ハ皆其性質有ルヲ
ヲ知リ得可シ例ヘバ白キ物ハ善ク光輝ヲ反射
スルノ實有ルヲ知ルニ因テ氷、雪、白粉等ノ能ク
光輝ヲ反射スルノ性質有ルヲ知ルガ如シ殊ニ
動物家、植物家ノ若キハ夫ノ動植ニ物ヲ正當ニ彙
類スルコト最其學科ノ緊要トスル所ナリ蓋シ
天然ニ在ル所ノ生活物ハ一々其性質ヲ記シ難
ク勢亦等類ニ因テ其性質ヲ定メザルヲ得ズ
凡ソ諸物ヲ彙類スルニハ唯皮相ニ依テスベカ
ラズ宜シク其性質ヲ極メテ之ヲ定ムベシ蓋シ

唯其外貌ニ依ル者ハ其類ヲ彙スルニ當リテ許
多ノ謬誤ヲ致ス_レ有レバナリ夫ノ鯨鯢海豹海
馬ノ如キ皆其水中ニ棲息スルヲ以テ外ヨリ之
ヲ見レバ宜シク魚類中ニ置クベキガ如シト雖
是レ誤謬ナリ此三物ノ性質ハ魚ニ非ズシテ實
ニ獸ナリ焉_レ之ヲ魚類中ニ彙集スル_レヲ得
ヤ蝙蝠ノ若キモ其飛行スル所ヲ見レバ恰モ是
レ鳥類ノ如シ然レ_レ氏蝙蝠ハ自カラ是レ獸類ノ
_レ鳥類ニハ非ズ又夫ノ竹及甘蔗ト米麥トハ其
觀同シカラズト雖畢竟皆是レ同一等類ノ植物

ナリ
又同一名辭ニシテ觀ル所ノ異ナルニ因テ或ハ
自カラ等類ノ名ヲ表シ或ハ他ノ等類ノ一部分
タルヲ表スルコト有リ乃人ト云フガ如キハ動
物等類ノ部分ト為シテ見ルベク亦黃白等數種
ノ人類ヲ普稱スルノ名ト為シテ見ルベキナリ
而シテ其自カラ等類ノ名ヲ表スル片ハ之ヲ類
ト稱シ其一部分ヲ表スル片ハ之ヲ種ト稱ス
類ト種トノ外行ノ意義ハ其類種ニ包含スル凡
百物ヲ云フ故ニ種ハ類ニ比スレバ其意義自カ

ラ狭シ例へバ書物ノ等類ヲ立テ更ニ之ヲ和漢書、洋書ニ分ツガ如キ書物ハ是類ナリ和漢洋書ハ是種ナリ而シテ書物ト云ヘル名辭ノ指ス境界ハ和書、漢書、洋書ノ指ス境界ヨリ自カラ廣大ナルヲ知ル可キナリ類ノ内包ノ意義ハ其指ス物ノ全質ヲ示シテ以テ之ヲ他ノ類ト別ツ種ノ内包ノ意義モ亦然リ其種中ノ全質ヲ示シ因テ以テ他種ト區別ス故ニ種ノ内包ノ意義ハ類ノ内包ノ意義ヨリ深シ蓋シ種ノ指ス性質ハ固ヨリ類ノ指ス所ヲ含包

シ又且同類中ノ他種ト區別スベキ性質有ルヲ示スナリ而シテ其附加シタル性質ヲ稱シテ差質ト云ヒ内包ノ意義ニ就テ云フ片ハ類ニ差質ヲ附加シタル者ヲ稱シテ種ト云フナリ例へバ家屋ヲ類トシ之ニ附加スル石^ニ造^リた^ルト云ヘル差質ヲ以テスレバ石屋ト云ヘル種ヲ立ツルヲ得ルガ如シ一物ヲ觀テ或ハ種ト為シ或ハ類ト為スコト有リ例へバ人ヲ一類ト立テ、之ヲ白黄等ノ數種ニ分チ又其白人種ヲ一類トシテ之ヲ英佛等ノ

國民ニ分チ又其佛人ヲ一類ト立テ、之ヲ分テ
 男女ノ二種ヲ別チ又其男ヲ立テ、一類ト為シ
 以テ老壯幼少等ノ數種ニ分ツガ如シ終ニ復分
 種スベカラザルニ至ル之ヲ稱シテロエスト、スベシス最小分種ト
 云フ之ニ反シ人ヲ動物ノ一種ト立テ又動物ヲ
 活物ノ一種ト立テ漸ク積ンデ別ニ一種ヲ立ツベ
 カラザルニ至ル之ヲ稱シテハイエスト、レナス最大集類ト云フナリ
 凡ソ一類ヲ分チテ數種ト為スハ所謂彙類ノ一
 ニシテ之ヲロジカル、ロジシヨ論理學上ノ分別ト稱ス例ヘバ書物
 ヲ一類トシ之ヲ和書、漢書、英書、佛書等ニ別チ家屋

ヲ一類トシ之ヲ木造、石造、煉瓦造等ニ分ツガ如シ
 然レドモ今一類ヲ取テ一齊ニ數種ニ分ツハ
 數種交々相掩フヲ以テ徃々錯誤有ルヲ免レズ
 試ニ書物ノ一類ヲ取テ一齊ニ和書、英書、佛書、蘭
 書、歴史、地理書、繪入書、活版書等ニ別タバ和書ニ
 シテ活版摺ノ歴史有リ英書ニシテ繪入ノ地理
 書有ル等頗錯雜ノ弊有ルヲ免レザラン故ニ一
 類ヲ種ニ分ツハ必純一ノ原因ニ依テスルヲ妥
 當ナリトス例ヘバ書物ヲ分ツニ言語ノ一因ニ
 依ルガ如キ以テ和書、英書、佛書等ト為スベク又

其印刷方ニ依テ之ヲ分チ活版摺木版摺銅版摺
 等ト為スベシ
 又一類ヲ數種ニ別ツキハ其類中ノ物ヲ舉盡シ
 テ遺漏無キヲ保シ難シ則家屋ノ一類ヲ分テ
 煉瓦造石造木造土造ト為スモ尚更ニ氷屋玻璃
 屋等有リ故ニ今其脱漏錯誤ヲ免ル、ガ為ニ分
 種毎ニ唯分チテ二種ト為スノ術有リ例ヘバ家
 屋ト云ヘル一類ヲ二種ニ分チ第一種ヲ煉瓦
 造りたる家トシ第二種ヲ煉瓦_よて造らざる
 家ト為スガ如シ又更ニ其分別ヲ要セバ其第二

種中ニ就テ先ツ第一種ヲ立テ、木にて造りた
 る家トシ次ニ第二種ヲ立テ、木にて造らざる
 家ト為スベシ此人如クニ又進テ土_よて造りた
 る家ト土にて造らざる家トヲ分種スレバ彼此
 相掩ヒ若シクハ脱漏ノ弊ヲ避クベシ今圖ニ依
 テ之ヲ詳説スルコト左ノ如シ

家屋

煉瓦_よて作りたる家
 煉瓦_よて作らざる家

石_よて作りたる家
 石_よて作らざる家

木_よて作りたる家
 木_よて作らざる家

土_よて作りたる家
 土_よて作らざる家

上ノ如ク分別スルハ事甚迂遠ナルニ似タリト
雖論理ノ主トスル所ハ一ニ錯誤無キニ在レバ
勢終ニ此ノ如クセザルヲ得ザルナリ
上ニ陳ヘタル差質ノ外更ニ等類ニ本質ト稱ス
ル者有リ例ヘバ三角形ノ如キ同ク直線ノ經界
ヲ以テ作レル形線中ノ一ナレ氏其三邊有ルガ
為ニ他ノ直線ノ經界ヲ以テ作レル者ト其質ニ
差別有リ是レ所謂差質ニシテ又本質ト云ヘル
者有リ例ヘバ夫ノ三角形ノ角度ヲ加フレバニ
直角ニ等シキガ如キ是レ所謂本質ナリ又木造

三
差
質

屋ノ一例ヲ挙げケンニ蓋シ家屋ノ一類中木造屋
ノ一種ヲ立テ之ヲ他ノ材料ヲ以テ作レル者ニ
差別スルハ所謂其差質ヲ示シタルナリ而シテ
木造ハ別ニ燒燃シ易キト云ヘル一質ヲ有ツ是
レ其本質ノ一ナリ
本質ハ差質ト異ナリテ種ノ内包ノ意義内ニ在
ラズト雖亦必其種ニ備ハル一質ニシテ又毎ニ
差質ニ由テ起ル者ナリ今上ノ例ニ據テ之ヲ証
センニ夫ノ燒燃シ易キノ本質ハ實ニ木ニ由テ作
リタルノ差質有ルニ由ルナリ又人ト云フ一種

二理を知るト云ヘルハ是レ其差質ノ一ナリ而シテ其差質有ルニ由テ互に言語を以て相通すト云ヘル一個ノ本質ヲ生シ来ルナリ
差質本質ノ外更ニ偶質ト云ヘル者有リ是蓋シ偶然ニ具ハル性質ヲ云フナリ例ヘバ三角形ノ大小ノ如キ鳥ノ黒色ノ如キ人ノ白色黄色ノ如キ河川ノ深淺ノ如キハ皆偶質ナリ
以上ノ如ク万物ノ性質ヲ分別シテ或ハ差質或ハ本質或ハ偶質ト為スト雖其性質ニハ固ヨリ區別有ルニ非ズ唯名辭ノ意義ニ関リ之ヲ分別

シテ以テ論理上ノ便利ヲ謀ルニ在ルノミ
本編ニ説明セル類種差質本質偶質ノ五者ヲ合セテ之ヲ属隸的ト稱ス而シテ天地間ノ万象ニ就テ説述スベキ事物ハ決シテ其類其種其差質其本質其偶質ノ外ニ出テザルナリ例ヘバ人ハ動物ありト云フガ如キハ是レ其類ヲ云フナリ又人の過半ハ女子ありト云フガ如キハ是レ其種ヲ云フナリ又人ハ理を知るものありト云フガ如キハ是レ其差質ヲ云フナリ又人ハ互に言語を用ひて相通するを得るト云フガ如キハ是レ

論理各説 卷之七 四十 詞 盟

其本質ヲ云フナリ又或る人ハ黒色ありト云フ
カ如キハ是レ其偶質ヲ云フナリ
定義トハ名辞ハ内包ノ意義ヲ明確ニ述フルト
云フ之ヲ為スニ道有リ即通常其名辞ヲ立テ
一個ノ種ト為シ而シテ之ヲ總フル所ノ類ト
其差質トヲ挙げレバ則足レリ決シテ其本質ト
偶質トヲ挙げカベカラズ若シ之ヲ挙げレバ自カ
ラ繁雜ヲ生スルコト必セリ今一例ヲ挙げテ定
義ヲ為スノ方ヲ示スニ瀛船ノ一語ヲ假ラン抑
瀛船ノ定義ハ蒸氣の力にて走る船ト云フベク

シテ所謂船トハ其類ニシテ蒸氣の力にて走る
トハ其他船ト別異スル性質ヲ示ス者ナリ然レ
氏一切ノ名辞ニ就テ此法ヲ行フコト能ハザルナ
リ唯其内包ノ總意義ヲ掲グルヲ主旨トシテ以
テ定義ヲ行フ可シ
第七編 述意ノ轉換、直接推斷
一ノ實事ヨリ推究シテ他ノ實事ヲ断定スルヲ
推斷ト云フ論理學ノ主腦トスル所ハ第一編ニ
説明セル如ク推斷ノ定則ヲ論ズルニ在リテ是
マデ説明シ来リタル名辞及述意ノ解義ハ充分

言玉田言
二 是ヲ解釋スルノ用ニ供スルノミ
今地上ニ水ノ点滴アルヲ見テ雨降リタリト断
定スルハ是正ニ推断ト稱ス可キトハ人皆之ヲ
承認スルナラン(此例ハ實ニ推断ノ繁雜ナル者
ニシテ後編ニ至リテ充分ニ之ヲ論ス可シ)又家
康ハ徳川氏ノ先祖ありト云フ述意ヨリシテ徳
川氏ノ先祖ハ家康ありト云フ述意ヲ得ルハ正
ニ推断ト稱ス可キ者ニ非ザルヲ明ナリ然レ氏
此二者ノ間ニ在テ孰ヲ推断ト稱ス可ク孰ヲ推
断ト稱ス可カラザルヤノ分界ヲ定ムルハ論理

家ノ全ク一致セザル所ナリ然レ氏是等ノ事ハ
今姑ク舍テ論セズ本編ニ於テハ唯一個ノ述意
ヨリ他ノ述意ヲ得可キ方法ヲ示サントス
述意ノ主辞ト属辞ヲ交換スルヲ之ヲ其述意ヲ
轉換スルト云フ轉換ス可キ述意ヲ原述意ト云
フコシバルト轉換シテ得タル者ヲ轉換述意ト云フ
述意ヲ轉換スルニ二則有り左ノ如シ
第一則述意ノ質(即其肯定ナルカ否定ナルカ)ハ
原述意ト轉換述意ト同一ナラザル可カラズ
第二則原述意ニ於テ周逮セザル名辞ハ轉換述

論聖略記 卷之七 四十二 詞 盟 舍

意ニ於テ周逮ス可カラズ
茲ニ凡ての學術ハ有益かるものありト云ヘル
述意有リ今單ニ之ヲ轉換セバ凡ての有益かる
ものハ學術ありト成ル然レバ有益かるものハ
原述意ニ於テハ周逮セラレズシテ轉換述意ニ
於テ周逮セラレタレバ此轉換ハ第二則ニ反ケ
リ當ニ轉換シテ得可キ者ハ或る有益かるもの
ハ學術ありト云フ述意ナリ是ノ如ク阿ヨリ以
ニ轉換スルハ境界ヲ狭クシテ轉換スル者ナレ
バ之ヲ減界轉換法ト云フ

互也

轉換述意ト原述意ト同量ノ述意ナルギハ之ヲ
單純轉換法ト云フ例ヘバ或る東京人ハ士族カ
リヨリ或る士族ハ東京人ありテ得可シ故ニ以
ハ單純轉換法ニ由リテ以トナル
又一の學術も無益かるものはあらむヨリ單純
轉換法ニ由リテ一の無益かる
ものも學術ニあらむヲ得可シ
圖ヲ按スルニ學術ノ圓形ハ全
ク無益かるものノ圓形外ニ在
レバ無益かるものモ亦學術ノ

無益ナル者

學術

圓外ニ在ルヲ勿論ナリ故ニ江ハ單純轉換法ニ由リテ江トナル

於述意ヲ轉換セントスルニ特ニ困難ナルヲ有リ其主辭ハ周逮セザルモノナリ然ルニ今之ヲ轉換シテ否定述意(第一則)ノ屬辭トナセバ轉換述意ニ於テハ周逮セラル可シ例ヘバ此ニ或る日本人ハ東京人ニあらむト云ヘル於述意有リ今單純ニ之ヲ轉換スレバ凡ての東京人ハ日本人ニあらむヲ得可シ其不當ナルヲ明ナリ則日本人ナル名辭ハ原述意ニ於テ周逮セズシテ轉換

述意ニ於テ周逮シタル(第二則ニ及ク)ニ由ル然

東京人
日本人

レバ之ヲ減界轉換法ニ由リテ轉換

セシカ或る東京人ハ日本人ニあらむト為ル可シ是不當ナルヤ否ヤヲ知ル可カラズト雖決シテ原述意ヨリシテ推断ス可キ者ニ非ズ是亦同上ノ理由ヲ以テ然ルナリ

故ニ於述意ハ單純ニ轉換ス可カラズ亦境界ヲ狭クシテ轉換ス可カラズ是ヲ以テ新ニ一法ヲ設ク之ヲ否定轉換法ト云フ其法左ノ如シ先ツ原述意ニ於テ否定ノ意義ヲ連辭中ニ含マシメ

転

ズシテ属辞中ニ含マシメ以テ肯定述意ニ變シ
而シテ單純ニ之ヲ轉換スルナリ前ノ例ニ於テ
先ツ原述意ヲ或る日本人ハ東京人からざる人
かりトシ此以述意ヲ單純ニ轉換シテ或る東京
人ハあらざる人ハ日本かりヲ得可シ
更ニ轉換ノ一法有リ之ヲ對偶轉換法ト云フ阿
述意ニ用ヰル可キ者ナリ左ノ例ヲ以テ之ヲ示
サン原述意ヲ凡ての東京人ハ日本人かりトセ
バ此法ヲ以テ凡ての日本人からざる人ハ東京
人からざる人かりヲ得可シ是第五編第一圖ニ

依テ明ナリ東京人ノ圓形ハ原述意ニ於テ全ク
日本人ノ圓形内ニ在レバ日本人ノ圓形外ニ在
ル者ハ東京人ノ圓形外ニ在ルヲ明ナリ對偶轉
換ヲ為スニ當リテ大ニ錯誤ヲ生ジ易シ例ヘバ
右ノ原述意ヨリシテ凡ての東京人からざる人
ハ日本人からざる人かりト推断セバ其不當ナ
ルヲ亦同圖ニ因リテ明ナリ何ナレバ東京人ノ
圓形外ニ在ルモ日本人ノ圓形外ニ在ラザル
者有レバナリ然レドモ世一般是ノ如キ錯誤ヲ
為ス者決シテ僅少ナラザルナリ今左ニ對偶轉

換法ノ解釋ヲ掲ク
對偶轉換法トハ阿述意ノ屬辭ニ對スル陰辭ヲ以テ主辭ト為シ又其主辭ニ對スル陰辭ヲ以テ屬辭ト為シテ新ニ阿述意ヲ得ルヲ云フ
對偶轉換法ハ局稱述意以於ニ用ヰル可カラズ又江述意ニ用ヰントセバ先ツ之ヲ變シテ阿述意ト為シ而シテ後ニ之ヲ行ハザル可カラズ例ヘバ一人の東京人も歐洲人もあらむト云ヘル
江述意ヲ變シテ阿述意凡ての東京人も歐洲人もあらざる人ありトス可シ今之對偶轉換スレ

バ凡ての歐洲人もあらざるものゝあらざる人ハ東京人もあらざる人なりト為ル而シテ歐洲人もあらざるものゝあらざる人トハ即歐洲人ト同一ナレバ凡ての歐洲人も東京人もあらざる人なり即一の歐洲人も東京人も非らむト成ル可シ是單純轉換法ニ由リテ同様ノ述意ヲ得可キ者ナレバ則以テ此法ノ正シキヲ証スルニ足ル直接推斷トハ一述意ヨリ其名辭ヲ轉換セズシテ引証スルヲ云フ
其一法ハ肯定述意ヨリ之ト同一ナル否定述意

ヲ推断シ或否定述意ヨリ肯定述意ニ變ズルヲ云フ今其例ヲ挙ゲテ之ヲ詳ニセン

阿 総ての小人ハ閑居屯れば不善ヲ為す

江 一人の小人も閑居して不善を為さず

阿 総ての人ハ不完全あり

江 一人も完全ある人ハ有らむ

以 或る人ハ正直あり

於 或る人ハ不正直よあらむ

於 或る人ハ正直からむ

以 或る人ハ不正直あり

是等ハ皆先編ノ圓形圖ヲ按シテ明ナリ
第二法ハ述意ノ主辞及属辞ニ形容詞ヲ加ヘテ
其意義ヲ狭クスルニ在リ例ヘバ総ての彗星ハ
實體ありヨリ総ての見る可き彗星ハ見る可き
實體ありト云フ述意ヲ得可シ又瀛船ハ船あり
ヨリ三本櫓の瀛船ハ三本櫓の船ありヲ得可シ
然レ氏此法ヲ行フニ當リテ注意ス可キ事有リ
例ヘバ官吏ハ人ありヨリ不能なる官吏ハ不能
なる人ありトセバ誤謬ナリ是蓋シ不能ノ辞ヲ

異ナル意義ニ用キタルニ由ル官吏ト為リテ不能ナルモ未必シモ其一人上ニ在リテ不能ナルヲ推断スルヲ得ザルナリ又草廬ハ家屋かりヨリ大なる草廬ハ大なる家屋かりトスル能ハズ總テ比較ノ意義有ル詞ハ此法ヲ用キル可カラザルナリ

第三法ハ殆ト第二法ニ同シク一述意ノ名辞ヲ取リテ之ヲ複雑ナル名辞ノ一部分ト為スヲ云フ例ヘバ馬ニ四足獸ありヨリ馬の骸骨ニ四足獸の骸骨ありヲ得ルガ如シ此法ニ於テモ亦第

二法ト同一ノ注意ヲ要スル事有リ例ヘバ總テの東京人ニ日本人ありヨリ總テの東京人の過半数ハ日本人の過半数あり或ハ總テの東京人中最學識有る者ハ日本人中最學識有る者かりトセバ其不正ナル事明ナリ

第二及第三法ニ於テモ善ク名辞ノ量ニ注意シ原述意ニ於テ周逮セザル者ハ断言ニ於テモ亦周逮ス可カラズ上例ノ大なる草廬ハ大なる家屋かりトスルノ誤謬ノ若キ家屋ノ名辞ハ原述意ニ於テ周逮セザルヲ總テの家屋中大なる者ノ

意義トシテ即周逮セラル、ニ由リテ生ズルナリ
 又第三法ノ例ニ於テモ「日本人」ハ原述意ニ於テ
 ハ周逮セラレズ然ルニ日本人の過半数ト云へ
 バ総ての日本人の過半数ノ義ナレバ則断言ニ
 於テハ周逮セラル是其誤謬ノ由リテ生スル所
 ナリ

論理略説卷之上終

明治十五年十二月十六日 板權免許
 同 年 同 月 刻成出版

編述者

菊池大麓

日本橋區蛸壳町三丁目十一番地

出版者

青木輔清

同區濱町二丁目十一番地

製本發兌

同盟舎

同區濱町二丁目十一番地



發

賣

書

肆

大坂順慶町二丁目

大坂備後町四丁目

周防國山口中市町

阿波國德島中通町

下野國栃木倭町

尾張名古屋本町八丁目

東京日本橋通三丁目

同 芝三島町

同 本石町二丁目

同 大傳馬町三丁目

同 本町二丁目

同 馬喰町二丁目

同 横山町二丁目

同 日本橋西河岸

此村庄助

梅原龜七

宮川臣吉

阪井萬吉

小林八郎

丸善書籍店

山中市兵衛

江嶋喜兵衛

東生龜次郎

柳河梅次郎

石川治兵衛

内田弥兵衛

内田芳兵衛

口王

文筆

高田早苗

東京東町門番松

